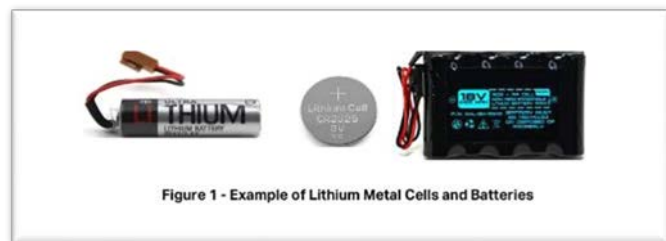


モバイルバッテリーの取り扱いが変わりました

< 概要 >

リチウムイオン電池は国内に 10 億個以上普及し、毎月 2000 万個以上が新たに出荷されています。また電気自動車が広く普及するなど、現代社会には欠かせない存在となっています。

一方で、2025 年 1 月に韓国・金海空港で発生した乗客が持ち込んだモバイルバッテリーの火災が原因と考えられている火災事故など、リチウムイオンバッテリーに起因する事故やインシデントは後を絶ちません。多くの場合、不良品への充電や過充電、落下の衝撃による物理的な変形などが爆発や火災の原因と言われています。



リチウム・メタル バッテリー(充電不可)



リチウム・イオン バッテリー(充電式)

< 日本でのモバイルバッテリーの取り扱いが変更 (2025. 7. 8~) >

航空局は定期航空協会と共同で、航空機内へ持ち込まれるモバイルバッテリーの取り扱い変更に関するプレスリリースを発表しました。

- 1. 機内預け入れ荷物に入れないで!**
預け入れ荷物に入れることは禁止されています。
必ず機内に持ち込んでください。
- 2. 短絡しないように個々に保護!**
予備のバッテリーパックには、端子に絶縁テープを貼る、ケースや収納袋に入れる、複数のバッテリーや金属品と同じ袋に入れないなど、短絡を防ぐこと。
- 3. ワット時定格量(Wh)を確認!**
ワット時定格量が160Whを超えるものは禁止されています。
160Wh以下のものであることをご確認ください。
(100Whを超え160Wh以下のものは2個まで)

PS E ●●●株式会社
 定格容量: 27,000mAh
 公称電圧: 3.7V (99.9Wh)
- 4. 収納棚に収納しないで!**
座席上の収納棚に収納せず、お手元で保管してください。
- 5. 使用の際は常に状態が確認できる場所で!**
機内でのモバイルバッテリーから携帯用電子機器への充電又は機内電源からモバイルバッテリーへの充電については、常に状態が確認できる場所で行ってください。

NEW
 令和7年7月8日から

※: 1~3は航空法第86条に基づく義務事項、4・5は協力要請事項

(出典: 航空局)

< 変更のポイント >

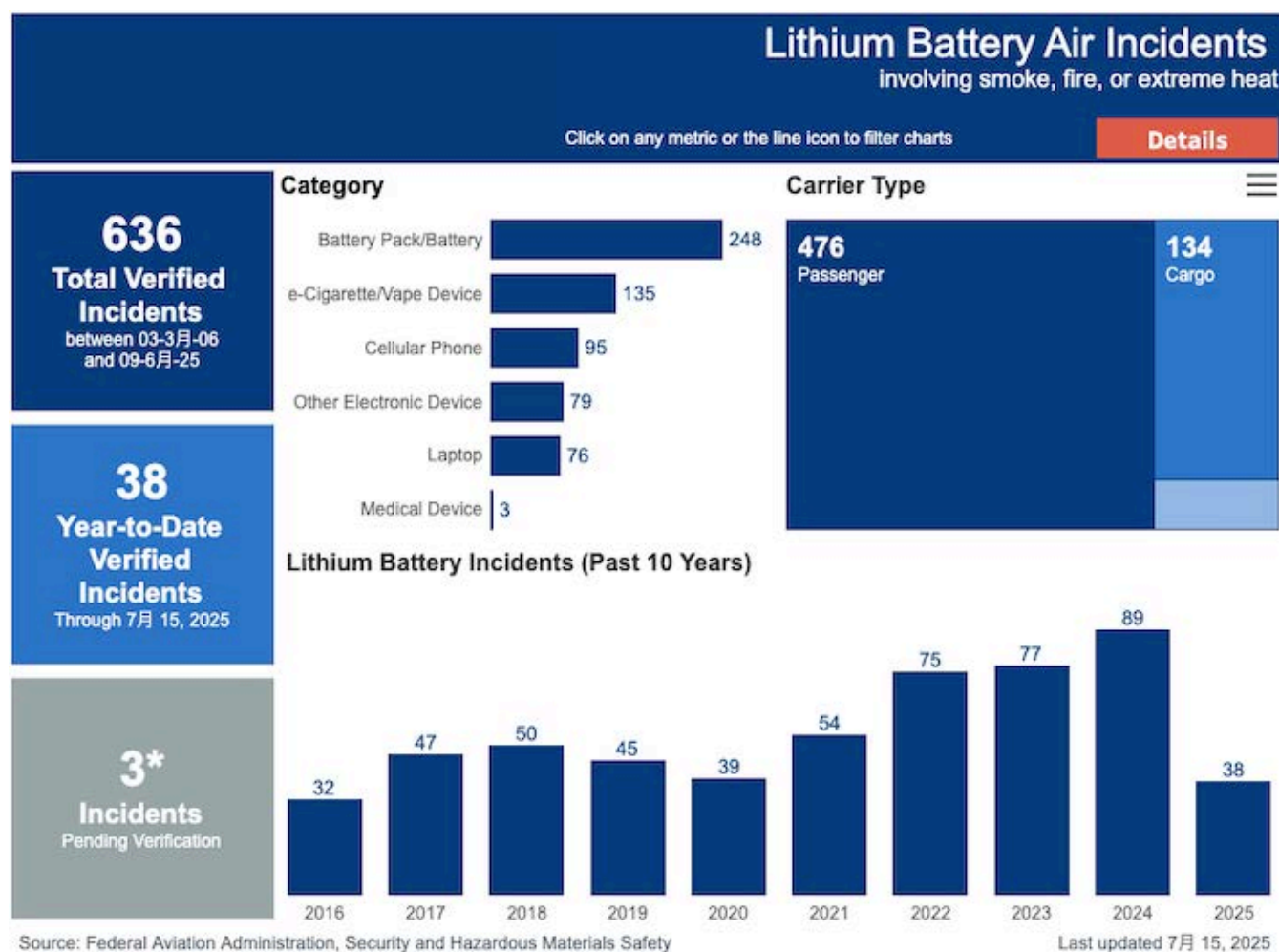
旅客がモバイルバッテリーを機内へ持ち込む場合、「収納棚に収納しないこと」「使用する際は、常に状況が確認できる場所を実施する」ということが追加されました。

今回の変更は乗務員も対象となっており、上記のほかにも、操縦室内でモバイルバッテリーを使用する場合や、長距離路線で Rest Facility へ移動する場合の使用や管理にも注意が必要です。

詳しくは、各航空会社内でのマニュアルや手順に従ってください。

< 参考情報 >

FAA(米国連邦航空局)より、直近のバッテリーに起因する事故やインシデントに関するデータが公表されていますのでご紹介します。



リチウムバッテリーを起因とした過去 10 年のインシデント数(2025.7.15 現在)

(出典: FAA https://www.faa.gov/hazmat/resources/lithium_batteries/incidents)

上表を見ると、近年の増加傾向や旅客便でのリチウム・バッテリーによる火災事例が貨物便を上回ることが分かります。また、FAA からはコクピット内・客室内、それぞれでバッテリーに起因する火災が発生した場合の初期消火手順をビデオで紹介しています。



操縦室:
客室:

<https://youtu.be/kbbJBzSufIY>

<https://youtu.be/tQbqIHj67bk>

< 航空機内にある様々な「バッテリー搭載機器」 >

スマートフォンやPC、モバイルバッテリーなどの身近な機器以外にも、航空機の内部(客室・貨物室)には様々な「バッテリー搭載機器」が存在しますので、以下に紹介します。



Portable electronic device = PED
(スマートフォンやPCなどの携帯型電子機器)



e-cigarette (vape or pipe)
(過熱式電子タバコ、VAPE = ベイプ)



Portable Medical electronic device (PMED)
AED などの医療電子機器



Smart Luggage
(スマートバゲージ)



Small Vehicle
(スマートカー)

ICAO や IATA など危険物輸送に関する会議体では、リチウムバッテリーを使用した新製品が日々発売される現代社会において、リチウムバッテリー及びそれを搭載した様々な電子機器の安全な輸送を目指して様々な議論が絶え間なく続けられています。リチウムバッテリーに替わる新たなバッテリーの開発が進んでいることから、いずれはそうした新たなバッテリーの航空機輸送や搭載に関する議論も必要になってきます。

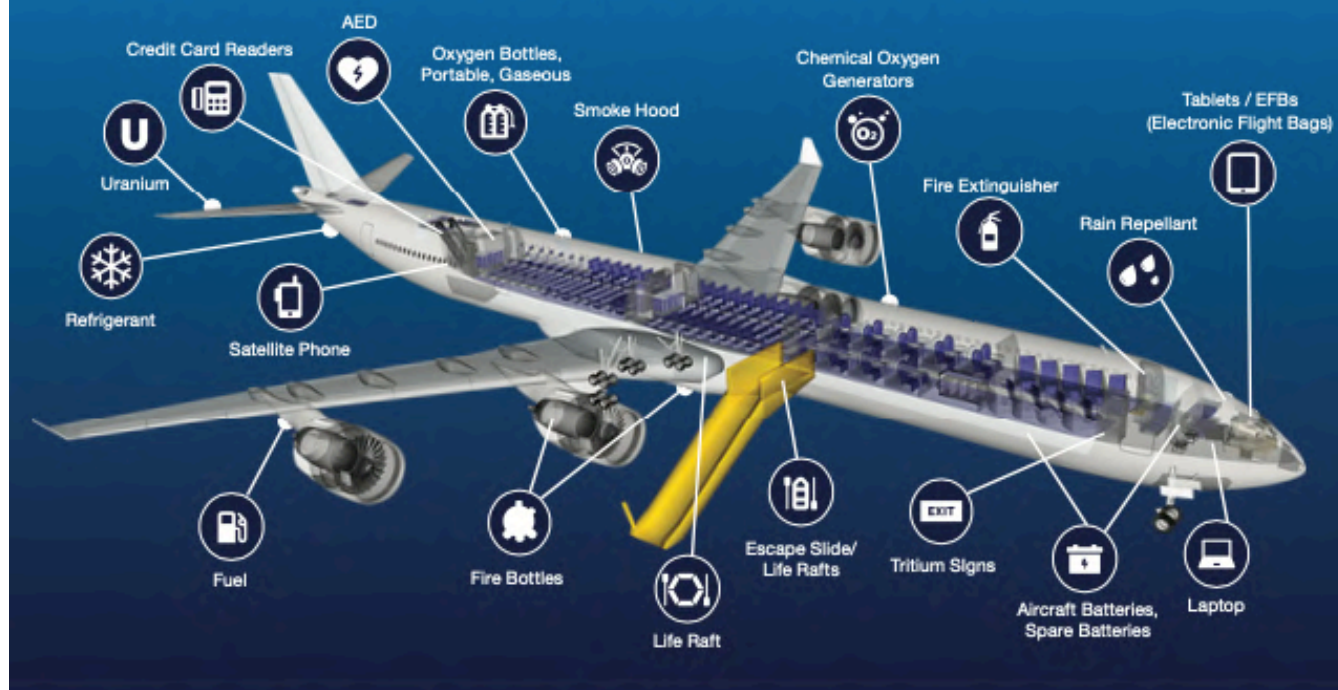
民間航空機が設計され始めた頃には考えられなかった、また想定されていなかった火災や煙の発生の危険性が静かに広がっていることを私達乗務員は認識し、高い意識を維持しながら日々の安全運航を堅持することが求められています。

< 航空機に使用・搭載されている危険物リスト >

最後に、2022 年に FAA が発行した「航空機に使用・搭載されている危険物リスト」をご紹介します。リチウムイオンバッテリー以外にも、航空機に使用されている物質や搭載されている非常用装備品や機用品には危険物が多くあることが改めて実感出来ると思います。

こうしたことを知っておくことは、日常運航のうえで意外と大切な心構えに繋がるかもしれません。

HAZARDOUS MATERIAL(s) ONBOARD AIRCRAFT



HAZARDOUS MATERIALS ONBOARD AIRCRAFT

The following are examples of Hazardous Materials which **MUST** be declared properly as cargo:

- **Batteries, Aircraft**
 - Aircraft Batteries
 - Lithium Batteries / Equipment Containing Lithium Batteries: APU Units, Defibrillators, ELTs, Crew EFBs, and Portable Card Readers
- **Aircraft Engines**
- **Escape Slides / Life Rafts**
 - Life Raft
 - Under Seat Life Vest
 - First Aid Kit
- **Fire Bottles (APU, engines, lower cargo compartment, and lavatory waste containers)**
- **Fire Extinguisher (attendant stations, closets, galleys, etc.)**
 - Cabin Fire Extinguisher
 - Cargo Compartment Halon, Halon Fire Extinguisher
 - Engine Fire Extinguisher and Explosive Squib
- **Fuel**
 - Unpurged Fuel Control Unit
- **Uranium (depleted, counter-balance weights)**
 - Depleted Uranium Control Balance
- **Ordnance Devices (off-wing escape)**
- **Oxygen Bottles, Portable, Gaseous**
- **Oxygen Bottles, Crew System, Gaseous**
 - Crew Oxygen Cylinder
- **Oxygen Bottles, Passenger System, Gaseous (standard)**
 - Emergency Walk Around Oxygen Cylinder
- **Oxygen Generators (OPTIONAL: each PSU STANDARD: each attendant station and lavatory)**
 - Chemical Oxygen Generator
- **Rain Repellent**
- **Refrigerant (located in each galley)**
 - Parts Containing Residues of Hazardous Materials
- **Smoke Hoods**
- **Tritium Signs (aisle and emergency exit doors)**
 - Radioactive Exit Sign

Contact the Federal Aviation Administration (FAA) with any COMAT questions:
Email: hazmatinfo@faa.gov Website: www.faa.gov/go/operatesafe



Federal Aviation Administration

(出典:FAA COMAT Brochure 2022)

以上